

# がん医療最前線

～正しい知識と理解～

静岡県立静岡がんセンター公開講座 第10弾「がん医療最前線～正しい知識と理解～」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立静岡がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛、三島市、長泉町、裾野市協力、同市町教育委員会後援)の第4回が11月2日、三島市民文化会館で開かれ、大出泰久呼吸器外科部長と青木和恵副院長が「肺がんの最新外科治療」「がんの治療の継続に必要なケア」をテーマに講演しました。その概要をお伝えします。

〈企画・制作／静岡新聞社事業部〉



県立静岡がんセンター呼吸器外科部長 大出 泰久氏

1993年浜松医科大学医学部卒。同大第一外科入局。96年国立がんセンター東病院レジデント。2002年静岡がんセンター呼吸器外科赴任。12年同部長。日本外科学会指導医、日本呼吸器外科学会専門医・評議員。日本呼吸器内視鏡学会指導医など。

## 早期発見へ検診を

日本では肺がんの患者数が増え続けており、年間10万人近い患者さんが新たに生まれ、7万人超の方が亡くなっています。

肺がんは治りにくく、非常に見つけにくい病気ですが、早期発見・早期治療で治る病気であることも事実です。

肺がんに関して正しく認識して、正しく恐れていた方がいいと思います。

肺がんの原因は、やはりたばこです。喫煙者が肺がんになる可能性は、非喫煙者に比べ男性で4.5倍、女性で4.3倍。さらに喫煙はその他のがんや血管性疾患の発症リスクにもなります。

また、たばこを吸わない女性の肺がんは、その約3割が夫などのたばこによる受動喫煙

# 肺がんの最新外科治療

肺がんの治療には手術、放射線、抗がん剤の三つがあります。

肺がんには、たばこ強い関係がある扁平(へんぺい)上皮がん、女性に多い腺がん、小型で非常に進展の早い小細胞がんがあり、それぞれのタイプ合った治療法や抗がん剤を選択します。

さらに次世代内視鏡手術であるロボット支援手術(ダ・ヴィンチ)が呼吸器外科の一部施設で使われ始めました。

肺は右側が上・中・下、左は上・下と計5枚の房からできています。

同時に転移の可能性のある肺周囲のリンパ節をきれいに取り除きます。

## 「闘う」から「共生」へ

がんは、生命システムのルールから逸脱した細胞が起こす病気です。その主な治療には手術、薬物、放射線の三つがあります。

がん患者さんには予防から発見、根治治療を経て治療するプロセスと、根治治療から延命治療に入っていくプロセスがあります。

## 共生に必要な治療継続

がんと共に生きるには、治療を継続していくことが大切です。

今回は、WOCケアという分野を例に説

# がんの治療の継続に必要なケア

①「機能低下への対応」

がんの手術では、再発や転移のリスクを小さくするために、がんができた臓器も一緒に取り除くことがあります。

②「副作用への対応」

放射線や抗がん剤によって正常な細胞もダメージを受けることがあります。

導入の準備段階に入っています。

## 新たな治療法と治療の個別化

がんを切らずに治す放射線治療は非常に進歩しており、定位放射線治療、陽子線治療など、がんをピンポイントで治療できるようになっています。

また内科治療の急速な進歩で、肺がんの種類によって使う抗がん剤の種類が変わり、非小細胞がんの中でも、組織型や遺伝子変異の有無によって治療法や手術の補助療法の方法が変わりつつあります。

一部のIV期の進行がんに対しても、内科治療と手術の組み合わせによる治療方法が検討されています。

## 質疑応答

事前や当日寄せられた質問を中心に質疑応答が行われました。紙面の都合により、本講座の内容に即した質問事項をまとめました。

- Q 検診で71歳の妻に早期肺がんが見つかり手術を受けるのですが、手術費用などについての相談先はありますか。
A 70歳以上の方ですと、医療費の自己負担割合は多くの方が1割の負担で、かかった費用は高額療養費の対象となります。
Q 肺がんのIV期と診断され、骨転移もありましたが、分子標的薬イレッサが効き、職場復帰しています。今後、イレッサが効かなくなったときはどのような治療方法がありますか。
A 肺がんの内科治療は進歩しています。イレッサはEGFR(上皮成長因子受容体)の遺伝子変異の患者さんに効く薬ですが、効果がなくなったときには、別の抗がん剤や同じタイプの異なる分子標的治療薬による二次治療、三次治療の効果も期待できることもあります。

③「症状緩和」

がんの症状の一つで、WOCケアの専門性が求められるのが、腹部の壁に開いた穴から消化液などが漏れ出してくる「瘻孔(ろうこう)」です。

④「衝撃を乗り越える」

がんは患者さんに耐えがたい衝撃を与え

人間にとってがんは厳しい病気であることと違いはありません。



県立静岡がんセンター副院長 青木 和恵氏

都立新宿高等看護学院卒。国立がんセンター中央病院入職。1982年昭和女子大文学部卒。2002年静岡がんセンター入職。03年金沢大大学院医学系研究科保健学専攻看護学領域修士課程修了。11年より現職。日本褥瘡学会理事など。